

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	25	実施計画番号	78
事務事業名	老人クラブ活動支援		
個別事業名		事業開始年度	-
担当課名	高齢介護課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	厚生労働省老健局通知(H13.10.1老発第390号)	関連事務事業	
背景や経緯等	全国的に高齢化が進み、介護給付費の増大が問題視されている中、介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、健康に長生きする「健康寿命」を伸ばすことが重要となっている。そのためには高齢者を主体とする介護予防と、住み慣れた地域で生きがいを持って自立して生活していくことに対する支援が重要である。		
事務事業の目的	全国的に高齢化が進む中、高齢者が地域で生きがいをもって暮らしていくために、高齢者の積極的な社会参加を促進し、生きがいづくりを進めることを目的とする。		
実施状況	高齢者の生きがいづくりのための場として老人福祉センターを運営している。また、高齢者の社会参加のきっかけとして大きな役割を担っている老人クラブの活性化を図るため、健康増進事業や教養講座、社会奉仕活動等の事業への支援を行うとともに、老人福祉バスの運行を実施している。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	24	24	24
	人件費(千円)	864	864	864
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	19,795	19,610	19,610
うち一般財源	16,245	16,060	16,060
うち国県支出金	3,550	3,550	3,550
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	老人クラブ会員数				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		人	2,375	2,200	2,100	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
成果指標	成果指標名①	老人福祉センター年間延べ利用者数				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		人	目標値	6,000	6,000	6,000
			実績値	5,545	5,636	
			達成度(%)	92%	94%	
	成果指標名②	老人クラブ会員による福祉バス延べ利用者数				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		人	目標値	5,000	4,500	4,500
			実績値	4,699	4,239	
		達成度(%)	94%	94%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	25
計画No	78

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	3	存在意義の見直しの余地 1 / 4 クラブ会員数や十和田市老人クラブ連合会主催の健康づくり各事業参加者数は、年々減少傾向にある。 しかし、老人クラブは介護を必要としない状態で住み慣れた地域で老後を過ごしていくための重要な社会資源であると考えらる。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地 3 / 6 社会的に高齢化が進む中で、老人クラブ現会員の高齢化も進んでいる。組織にとらわれず自由な活動を求める団塊世代を中心に老人クラブ離れが進み、新規会員の減少が大きな課題である。そのため老人クラブの組織範囲を広げる等、柔軟に対応しているが、今後は今以上に老人クラブ活動について周知が必要である。 新規会員の増加により、活動が活発になり、閉じこもり予防や認知症予防を含めた高齢者の生きがい対策が充実される。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 老人福祉センターの運営管理は指定管理者制度を導入している。 老人クラブ活動に関する計画立案・運営は、老人クラブ連合会・単位老人クラブが行っている。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 広く市民には老人クラブ活動の意義を伝え、みなさんが参加できるように案内している。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
					現在の適性	16 / 20	改善の余地	4 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

老人クラブ活動は、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って老後を過ごすためにとても重要な活動であると考えているため、今後とも継続して支援していく必要がある。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

新規加入促進のため高齢介護課と老人クラブ連合会事務局とが十分に協議し、老人クラブ活動の果たす役割や社会的意義、活動内容、楽しさを広く市民に伝え、魅力のある元気な老人クラブの育成に力をいれる。